



いかな徳積みてその名の草の王	大畑 善昭
我にまだ沸点あらばダリアの炎	千田 百里
春愁の真只中の膝がしら	菊地 光子
創刊の頃の薄暑の奥座敷	辻 美奈子
どの坂も海より生まれ花朱戀	荒井千佐代
ほうたんの満足さうに崩れたり	甲州 千草
まつ新たな空気の通ふ植田かな	田所 節子
明け易し身に頸椎てふ螺旋形	大沢美智子
正論はおよそ退屈藤ゆれて	栗原 公子
亀鳴くや太く短き母の杖	七種 年男
保革油のクラブに匂ふ夏は来ぬ	林 昭太郎
仏灯のとりりと重き朧かな	能美昌二郎
涅槃図の嘆きに影のなかりけり	宮内とし子
大利根のたうたう茅花流しかな	町山 公孝
ざわざわと春ゆるゆると糸ぐるま	村上 葉子
しののめの色のはじめや桜貝	栗坪 和子
ねんごろにわが体積を菖蒲風呂	大矢 恒彦
体温を今こそ奪へ青薔薇	安藤しおん
五月来るペーパーナイフのいぶし銀	関根 瑤華
撫満たす水のた奔る五月かな	平松うさぎ
川音は紙漉唄か夏の月	木村あさ子
花は葉に無常迅速にべもなし	三好千衣子
つばくろの低く飛び交ひ雨来るか	本池美佐子
漢方薬を少し余して二月尽	小形 博子
葉緑体五月の光吸ひ込めり	道端 齊
花吹雪まなし廃墟の北斜面	岡澤 田鶴
陽炎をつきぬけてまた陽炎へる	小倉 征子
国難をでんと構へて山笑ふ	石橋みどり
菜種梅雨敢へて明るき句を詠まな	坂下 成紘
逆打ちの四国遍路やいごつそう	宮岡 弘

沖 の 水 脈

